**令和５年度　鳥屋小学校　学力向上ロードマップ**

**総括チーム（管理職・各部リーダー）・学校としての目標を立て，具体的に指示**

**する**

Ｒ５年４月１日

学力調査等による現状把握

**Ｐ・Ａ　研究推進委員会**

＜学力向上に向けた提案＞

・学力調査・各種調査に基づいた

学力向上プラン（改善プラン）の提案

（学力向上・授業研究の両面で）

**Ｃ　調査・評価部会**

・目標に基づいた学力調査等の集計・分析

・課題の明確化・原因究明

**検証**

・取組の検証

**研修支援**

・校内研修計画

**Ｄ　授業研究部会**

・授業研究の推進

・指導力向上の取組

**Ｄ　学びの基礎部会**

・学習規律

・基礎基本・活用力向上

・家庭学習・家庭との連携

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **鳥屋小学校　めざすゴール** | | | |
|  | 学力向上プラン | 指導力向上 | |
| 令和４年度  長期目標 | **対話を通して自分の考えをよりよいものにしようとしている児童　アンケートで肯定的評価７０％　以上** | | |
| 中期目標  １学期① | ○単元テスト「思・判・表」の正答率，８０％以上をめざす。→国：84.7点　算：79.9点 | 〇課題に対して，意欲的に対話している児童  児童アンケートで肯定的解答　６０％→８６％ | 〇児童の発話量５割  　　　　　　　発話量チェック平均　６割 |
| 2学期② | ○単元テスト「思・判・表」の正答率，８５％以上をめざす。→国：86.6点　算：78.4点 | 〇課題に対して，意欲的に対話している児童  児童アンケートで肯定的解答　７０％→89％ | 〇児童の発話量７割  　　　　　　　発話量チェック平均　６割 |
| 3学期③ | ○単元テスト「思・判・表」の正答率，８５％以上をめざす。 | 〇課題に対して，意欲的に対話している児童  児童アンケートで肯定的解答　８０％ | 〇児童の発話量７割 |
| 短期目標 | 目標達成のための月毎の取組８０％以上をめざす。 | | |

【ロードマップ】

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **月** | **学力向上**  **関係**  **行事等** | **総　括**  **◎学校長**  教　頭 | **Ｃ　調査・評価部会　研修支援**  　　　　　◎教務主任（小坂）  　低（加藤）  中（高柴・中谷）  高（岩田・古田） | | | **Ｐ・Ａ　研究推進委員会**  ◎研究主任・学力向上担当（　松中　）  評価調査部会（　小坂　）  授業研究部会（　清水　）  学びの基礎部会(　高岡　) | | **Ｄ　授業研究部会**  ◎（　低：清水　）  級外（池本・加賀）  中（山崎）  高（今井・松中） | **Ｄ　学びの基礎部会**  ◎（ 低：高岡 ）  　　低（池島）  　　中（村田）  　　高（小林・田畑） | | **全員** |
| **集計・分析**  **（岩田）** | **検証**  **（高柴）** | **研修支援**  **（小坂）** | **授業研究・学びの基礎**  **（清水・高岡）** | | **授業研究・指導力向上**  **（清水）** | **学習規律**  **（山森・村田）** | **学習基盤**  **（小林・田畑）** |
| ４ | R４年度　県評価問題分析結果  △国語：目的や意図に応じて複数の資料から情報を読み取り，まとめる力。  複数の条件を意識して，文章を書く力。  △算数：式や言葉，図形を構成する要素などに着目して答えを求めたり，求め方を説明したりする力。  　　　　根拠を明らかにして，判断した理由を説明する力。 | 学校目標長期・１学期①の設定 |  |  | 若手研提案  ・日常的ＯＪＴ  ・定期的ＯＪＴ  OJT  学級経営について  授業を支える指導技術  Ｐ | 校内研修全体会  (校内研究組織確認等)  研究授業計画作成  研究だより発行（各月）  **学力向上ロードマップ提案** | | 思いや考えを認め合い，学びを深めるために対話を意識した授業確認①  学習で使用するノートの書き方提示  児童の相互参観と教師のふらっと参観の計画  **前期学力向上プラン**  **授業で≪活発な対話で学びを深める≫**  **・対話を生むための学習課題　　　・児童の発話量の確保**  **・教師の補助発問と温かい言葉がけ**  **帯タイムで**  **★活用力・書く力を育てるために「活用問題」の取り組み**  **★互いを認め合うためにコミュニケーションスキルトレーニング（ナカノトーク）** | 学習規律の掲示  集会でモデル提示①  学習規律の進捗状況把握① | 帯タイムの提案・推進①  「話し方名人・聞き方名人」の提案・掲示物準備 | **前期学力向上共通実践　研究授業（年間一人一回以上）** |
| ５ | 研究主任連絡協議会  県基礎学力調査実施5/26全国学力調査実施5/27 |  | 県基礎学力調査5/26・全国学力調査5/27  採点集計  データ処理・分析  課題発見  原因究明  質問紙調査  （弱点項目5年)  児童・教員アンケート① | ★児童アンケート  ★教師アンケート | OJT  支援を要する児童の見取りと対応  授業づくり等  **課題克服に向けた方針の決定，具体的数値目標の設定** | Ｄ | | 校内研修全体会  （提案授業３年　道徳）  授業研究だより発行  （毎研究授業後）  思いや考えを認め合い，学びを深めるために対話を意識した授業確認②  児童の相互参観と教師のふらっと参観の推進・実施①  ブロック研修（教材研究） | 学習規律の掲示  集会でモデル提示② | 帯タイムの実施・推進②  「話し方名人・聞き方名人」の実施・推進① |
| ６ |  |  |  |  | OJT  授業づくり（研究授業相談会・模擬授業）  通知表について |  | | 思いや考えを認め合い，学びを深めるために対話を意識した授業確認③  学校訪問A  （研究授業　５年　道徳） |  | 帯タイムの実施・推進③  「話し方名人・聞き方名人」の実施確認② |
| ７ | 県基礎学力調査結果公表 |  | 県：データ処理・分析・課題発見・　原因究明  児童・教員アンケート② | ★単元テスト結果到達度  ★児童アンケート  ★教師アンケート | OJT  QUの活用について  合宿を想定した企画・運営・指導 | Ｃ | | 思いや考えを認め合い，学びを深めるために対話を意識した授業確認④  校内研修全体  （研究授業　１年　道徳）  （研究授業　特学　道徳）  ブロック研修（教材研究） |  | 帯タイムの実施・推進④  「話し方名人・聞き方名人」の実施確認③ |
|  |  |  |  |  |  |  |  | ★1学期のふり返り（各ブロック・全体） | | |  |
| ８ | 国学力調査結果公表 |  | 国：データ処理・分析・課題発見・原因究明 | 前期学力  向上プラン成果・検証 | OJT  危機管理等  総合の授業づくり・評価 |  | |  |  | **前期プランの検証の概略**  **授業思いや考えを認め合い，学びを深めるために対話を意識した授業づくり**  （取り組み①）学習課題の設定　意識調査の肯定的評価：児童８６％　教師９５％  〇課題があることで，何を考えていけばよいか分かる。（児童）  ▲課題に対して，自分の考えを書けない。（児童・教師）  （取り組み②）多様な考えを生むための言語活動（対話）意識調査の肯定的評価：児童８６％　教師９０％  〇相手の意見を聞くことで，分かることがある（児童）  ▲否定されると思うと，たくさん話すことができない。（児童）  （取り組み③）対話の活性化を図るために，補助発問や教師の温かい言葉がけを大切にする。意識調査の肯定的評価：児童８８％　教師１００％  ▲児童の評価と教師の評価に１２％のずれがある。  **後期学力向上共通実践　研究授業（年間一人一回以上）** |  |
| ９ |  | 学校目標長期・２学期②の確認 |  |  | OJT  Ａ  授業づくり（深める場について）  いじめ・不登校の未然防止・早期解決 | 連携校との指導案交流実施  連携校の研究発表会参加  他校への研究発表会参加促進 | **後期学力向上プラン提案**  授業  ・課題や補助発問を事前に研究するための時間の確保。  ・児童７割の対話量を確保する。  ・対話の質の向上を目指す。  ・対話のイメージの共有（教師・児童）対話を生む言葉の共有 | 思いや考えを認め合い，学びを深めるために対話を意識した授業確認⑤（カレンダーの  記入）  Ｄ  授業改善の継続  校内研修全体  （研究授業　１年　道徳）  ブロック研修  児童の相互参観と教師のふらっと参観の推進・実施② | 学習規律  集会でモデル提示②  学習規律の進捗状況把握② | 帯タイムの実施・推進⑤  「話し方名人・聞き方名人」の実施確認④ |
| 10 | 学力向上フォーラム  いしかわ道徳教育推進事業研究発表会 |  | 児童・教員アンケート③ | ★児童アンケート  ★教師アンケート | OJT  学級経営について | 評価問題対策提案 | | 思いや考えを認め合い，学びを深めるために対話を意識した授業確認⑥  校内研修全体  いしかわ道徳教育推進事業研究発表会  （研究授業　２年・３年・５年　道徳）  ビデオ撮影（研究授業　６年　道徳） |  | 帯タイムの実施・推進⑥  「話し方名人・聞き方名人」の実施確認⑥ |
| 11 |  |  |  |  | OJT  気になる児童への対応  アンガ―マネジメント |  | | 思いや考えを認め合い，学びを深めるために対話を意識した授業確認⑦  校内研修全体  （研究授業　４年　　道徳）  （研究授業　特学　　道徳）  ブロック研修 |  | 帯タイムの実施・推進⑦  「話し方名人・聞き方名人」の実施確認⑧ |
| 12 | 県評価問題Ⅰ(5年生) |  | テスト採点・集計・課題発見・原因究明  県評価問題分析結果  △国語：相手意識をもって話したり聞いたりする。  　　　　段落相互の関係を捉えて，考えとそれを支える理由や事例などを踏まえて読む。  　　　　文章を読んで理解したことについて感想や考えをもつ。  △算数：長方形・正三角形・箱の形などの定義，円や円周の性質。  　　　　長さやかさの単位と測定，時間の単位・時刻や時間を求めること  　　　　二次元表の読み取り，表やグラフの読み取り | ★後期学力向上プラン成果検証  学力調査・活用問題テスト（２～４・６年）  ★単元テスト結果到達度  ★児童アンケート  ★教師アンケート  ★質問紙調査（５年生） | OJT  情報モラル・情報セキュリティー  **後期プランの検証の概略**  （取り組み①）学習課題の設定　意識調査の肯定的評価：児童８９％　教師１００％  〇課題から考えをもって話し合いに参加できた。（児童）▲課題に対して，自分の考えを書けない。（児童）  〇対話を生むための学習課題の設定は有効であった。（教師）  （取り組み②）多様な考えを生むための言語活動（対話）意識調査の肯定的評価：児童92％　教師94％  〇友達の意見を聞くと，自分の意見の参考になるから。（児童）▲否定されると思うと，たくさん話すことができない。（児童）  ▲児童の発話量を確保することが，多様な考えを生むことに直接つながってはいない。（教師）  （取り組み③）補助発問や教師の温かい言葉がけを大切にする。意識調査の肯定的評価：児童８4％　教師１００％　▲児童の評価と教師の評価にずれがあり，補助発問についていけない児童がいる。  Ａ | Ｃ | | 思いや考えを認め合い，学びを深めるために対話を意識した授業確認⑧  ブロック研修 |  | 帯タイムの実施・帯タイムの実施・推進⑧  活用力向上チャレンジタイム（３・５年）  「話し方名人・聞き方名人」の実施確認⑨ |
| ★２学期の振り返り（各部会・校内研修全体会） | | | |
| １ | 第２回  中能登町テスト |  | テストの採点・集計・課題発見・原因究明 |  | OJT  指導要録の記載の仕方 | **短期学力向上プラン**  授業  （取り組み①と③）  ・他教科でも実施する。  ・他教科でのブロック研とモニタリングの実施。  （取り組み②）  ・対話の形態を児童に選択させる。  Ｄ | | 思いや考えを認め合い，学びを深めるために対話を意識した授業確認⑨  授業改善の実施  校内研修全体会  （今年度のまとめ） | 学習規律  集会でモデル提示③  学習規律の進捗状況把握③ | 帯タイムの実施・帯タイムの実施・推進⑨  活用力向上チャレンジタイム（３・５年）  「話し方名人・聞き方名人」の実施確認⑩ |  |
| ２ | 県評価問題Ⅰ結果提供 |  | テスト採点・集計・課題発見・原因究明  変容の検討  児童・教員アンケート⑤ | 学校目標達成度の検証  ★児童アンケート  ★教師アンケート | OJT  学校評価の汎用について | 校内研修全体会  (次年度主題等の確認)  研究授業計画作成  Ｃ  **学力向上の取組の**  **総括** | | 思いや考えを認め合い，学びを深めるために対話を意識した授業確認⑩  校内研修全体会  （次年度に向けての提案） |  | 帯タイムの実施・帯タイムの実施・推進⑩  「話し方名人・聞き方名人」の実施確認⑪  活用力向上チャレンジタイム（３・５年） |
| 今年度の振り返り（★各部会・★校内研修全体会） | | | |
| 3 |  | 次年度学校目標の方向性 |  | 単元テスト到達度 | １年間の振り返りと次年度に向けて  Ａ | 年度末課題の提案 | **次年度学力向上プラン**  **研究の方向性の提示** | 校内研修全体会（次年度の主題等の確認） |  |  |  |

**短期学力向上共通実践**